

■ 議題

今回の番組審議委員会は、11月7日（火）午前8時25分頃と午後5時55分頃（再放送）に放送した『おもてなしの英会話』と、11月23日（木）午後1時～3時に行ったサテライト放送「ヒッツFM開局20周年記念・ヒットネットTV（ケーブルテレビ）開局10周年記念共同番組『あんきなラ・テ・ネ』」、さらに「ヒッツ・デイリー・エキスプレス」内の新コーナーで12月8日（金）12時15分頃放送分の『てるさんとともみの料理散歩』を聴いて審議に入った。

■ 審議内容

会社側： 審議に入る前に、前回の番組審議委員会での意見に対しての回答、報告、今後の放送予定、聴取した番組の補足などを説明した。

大萱委員長： 只今、聴取した内容についてでもよいし、普段聴いている放送についてでもよいので、順次、意見ををお願いしたい。

田中委員： 『おもてなしの英会話』については、中学生の2人が出だしからすごくハキハキとしゃべっていて、かなり練習したのかなと感じた。上手にしゃべっていて良かった。中学生が出ることで、同じクラスや同じ学校の人、さらには同年代の人がラジオを聴くきっかけになると思うので、今後もこのコーナーに限らず機会があれば出てもらいたい。

『あんきなラ・テ・ネ』は、屋外での放送だったためか、音が少し籠って聴こえた。ゲストの女将さんが飛騨弁丸出しでしゃべっていたのが、地元らしさが出ていて良かった。また、女将さんの実体験を基にしたトイレの話は、内容が大ざっぱな話に比べ、興味を持って聴けた。今後も、何かを経験した人たちに出演してもらい、実体験を聴きたい。

『料理散歩』は、厨房の臨場感が伝わってきてとても良かったが（BGMではない）背景の音（換気扇？）がうるさいと感じたので、収録前に現場周辺から入ってくる音にも気を付けて欲しい。また、ラジオなので「わ～」や「すご～い」だけではなく、目の前で起きていることを伝える力が必要だと思った。さらに、1つの料理を数回に分けて紹介するということがあったが、1回で完結したほうがリスナーとしては分かりやすいと思った。

大萱委員長： 私も同じことを感じた。ただ、実況が難しいことも分かる。時間のこともあると思うが、1つの料理を1回の放送で完結したほうが分かりやすいと思うので、ぜひ検討して欲しい。

田口委員：『おもてなしの英会話』については、中学生がラジオに出ることが、聴いているほうも、出演した生徒にとっても新鮮で良かったと思う。様々な年代や職業の方がどんどんラジオに出たら、色々な話が聴けて良いと思う。『あんきなラ・テ・ネ』は、わいわいした感じがとても楽しそうで、飛騨弁を使っていたのも良いなと思った。

『料理散歩』は、てるさんの明るいキャラクターもあって、とても楽しそう、「カンカン」という鍋の音なども入っていて臨場感がすごく伝わってきた。聴いていて楽しかった。

川原委員：『おもてなしの英会話』は、中学生がハキハキと話していてとても聞きやすかった。頑張っている様子が伝わり、それが大人からみれば好感が持て、また、同年代の人からみれば親近感が湧き、ラジオに興味を持ってもらえるのではないかと思った。児童・生徒が参加することは、とても良いと思う。

『あんきなラ・テ・ネ』は、ゲストの女将さんの飛騨弁が、地元に住んでいる私たちにとってはとても親しみを感じた。内容も実体験に基づいた話があったり、笑いを交えた話があったり、また、楽しそうに掛け合いをする場面などもあり、聴いていてとても面白かった。

『料理散歩』については、やはりテレビと比べラジオで料理の工程を伝えるのは視覚情報が無い分、とても難しいと感じた。また、会話を続けることも大切だが、途中で余談や営業時間の確認をされていて調理の流れが途切れてしまい、「あれ？今、どの工程だったかな？」と思った。実際に食材を混ぜている音や焼いている音が入っているのは、臨場感があって良かった。1つの料理を数回に分けて放送することについては、今日試聴してみて、私も初め、何を作っているのかが分からず、最後のほうになって天津飯だと分かった。調理の要所要所で、料理名や工程の説明があると分かりやすいと思った。

大萱委員長：やはりラジオで料理を伝えることは大変難しいと思うし、余談もあって良いと思うが、どこで余談を入れるかなども含め創意工夫を凝らして欲しい。

高木委員：『おもてなしの英会話』は、中学生の声が非常にハキハキとしていて聞き取りやすかった。私もたまにヒッツFMに出ているが、私よりきれいに話をしていて勉強になった。

『あんきなラ・テ・ネ』は、女将さんの濃い飛騨弁が、意識したものか、素のままなのか分からないが、それに対してナビゲーターが標準語だったので、ナビゲーターも飛騨弁で返すと、より親近感が湧くのではないかと感じた。

『料理散歩』については、現場である店内の状況が目には浮かんで非常に良かった。臨場感があって良かった。ただ、ラジオではどうしても料理番組は伝わり難く、味を伝えるにも映像のあるテレビと比べると負けてしまう。今後も料理番組を続けていくのならば、番組の目的を考え、どうしたら良いのかを考えて欲しい。加えて、中華鍋を振る辺りから現場の2人はとても楽しそうに調理を進めている様子だったが、少しばかりリスナーを置いてけぼりにしていると感じた。

蒲生委員： 『おもてなしの英会話』は、中学生がはっきりとした口調で話をしていて、とても聴きやすかった。中学生が出ると新鮮な感じがして、番組として非常に良かったと思う。

『あんきなラ・テ・ネ』については、女将さんの言葉遣い（飛驒弁）が、非常に親近感が持て、また、和気あいあいとした雰囲気も良かった。ただ、音が少し聴き辛い感じがした。テレビと同時放送だったからなのか誰が何を言っているのかが、一部分からないところがあった気がした。

『料理散歩』は、ラジオで料理をどのように伝えるのかを楽しみにしていたが、結果的には、料理をラジオで伝えるのは難しいということがはっきりした。また、皆さんの意見にもあるように、1つの料理を完結しないことについては、私も今日の試聴で何を作っているのかが分からなかった。もっと詳しい実況があると良かったし、最後に試食して感想を述べても良かったという気がした。さらに、バックミュージックなのか雑音なのか分からないが、背景の音が少し騒々しく、それが話を聴き難くしていたのではないかと思う。

大萱委員長： 今日の審議委員会は、皆が同じ意見なので、多分リスナーも同じことを感じていると思う。ぜひ検討して欲しい。

『料理散歩』のコーナー冒頭で中国人の女性がしゃべっているが、唐突にタイトルコールが入り、その後も唐突に現場に切り替わる感じがあって、耳が付いていかない感じがした。やはり番組の中では間も必要で、臨場感を生むにしても例えばフェードで入っていくなど、少し工夫をしてもらえればと思う。

それから、何日何時のどの番組だったか覚えが無いが、SMAPの同じ曲が2回かかった記憶があるが、そのようなことは有るのか？

会社側： それは同じ時間だったか？

大萱委員長： 同じ時間だ。車に乗っていて同乗者も聴いていたので、間違いなく同じ曲だったと思うが、どの番組だったのか覚えてない。そのようなことがあったので、気を付けて欲しい。

これから特に雪の情報で、東海北陸自動車道のインターチェンジ名を言う機会があると思うが「しろとり（白鳥）I.C.」を「しらとり I.C.」と読んでいるナビゲーターがいるので、地名は特に気を付けて、間違いの無いよう徹底して欲しい。ナビゲーター同士でも、難しい読みなどは情報を共有して気を付けるようにして欲しい。

私も常にヒッツFMを聴いているわけでは無いですが、本当に良くなってきているとは思う。だからこそ、粗が目立つのかもしれないが、やはり気を付けて直して欲しい。

田口委員： 夜の番組構成は、どのように決めているのか？私はいつも同じ時間（21時～22時頃）に車に乗るので、ラジオを聴くタイミングも決まってしまうのだが、その時に放送されている番組が毎回同じ。具体的には子どもたちが作文を読んでいる番組や「ミナヴィータのラジオ食堂」だが、毎回同じ内容を放送しているのか？

会社側： 夜は、昼間に流した内容（コーナー・番組）を再放送している時間帯と、外部制作番組を放送する時間帯がある。同じものを何回か放送することも時々ある。最近では「税を考える週間」で子どもたちが作文を読んだものを放送した。少し前には「中学校の作文コンクール」の様子を放送した。どちらも昼間に流したものを、夜に再放送した。田口委員が車に乗っている時間と、その放送が何度か重なったのかもしれない。

田口委員： ラジオを聴く時間がその時間しか無い人にとって、毎回同じ番組を聴きたいと思う人と、違う番組を聴きたいと思う人がいるかもしれないと思ったので質問した。

大萱委員長： 「この時間にラジオを点ければ、この番組が聴ける」と思っているリスナーも居ると思うし、個々の行動パターンでラジオを聴くタイミングが同じ時間帯になってしまうことが多いと思う。致し方ない部分もあると思いますが、番組改編の時には夜の時間帯も含め、検討をお願いしたい。例えば年末だと、小中学校の音楽会の様子が流れるが、同じ時間帯に放送しているのか？日によって時間帯を変えるなどしていないのか？

会社側： 本放送、再放送とも同じ時間帯で、内容も同じだ。途中、インフォメーションを挟む箇所もあるが、午前10時から始まり、午後3時頃に終了する。

大萱委員長： この音楽会の夜の再放送は無いのか？

会社側： 夜の再放送もできなくは無いが、プログラムを細かく切り分けたり、学校ごとに区分している関係上、もし放送するとしても、1部分を繋ぎ合わせるかたちになると思う。

大萱委員長： 無理のない範囲で、色々工夫していただければと思う。
他に意見はないか？

今年はあと数日で終わるが、来年に向けての抱負は？開局 20 周年も終わって一休みというわけでは無いと思うので、何か抱負があれば教えて欲しい。

会社側： 基本的には、毎日の生放送をするのに精一杯だ。前回の番組審議委員会の中でも話が出たが、ヒッツFMは全体の 8 割ぐらいを自主制作の生放送で占めている。他のコミュニティーFM局ではあり得ないことだと、大萱委員長からもお話いただいた。だがその中で、色々なことを少しずつでも変えていかないと、「マンネリ」ということになってしまう。マンネリも良いのかなと思うこともあるが、少しずつ変化していくことも考えていければ良いと思う。難しいとは思いますが、日々頑張っていきたい。

大萱委員長： 今日は、遠藤ナビゲーターに出席していただいているので、審議委員の皆様、自分の思いや、こんな気持ちで放送しているということがあれば教えて欲しい。

遠藤ナビ： 今日、審議委員会に参加し、3点思った。

1点目は、やはりどうしても番組の内容や音楽が自分の年代に偏ってしまうので、10代から高齢の方まで幅広い年齢層に、聴いてもらえる仕掛け作りが必要だと改めて思った。

2点目は、ゲスト対応する際、相手が飛騨弁で話しても、標準語で返していて、テンポを大切にしていない印象を受けた。内容も大切だが、飛騨弁には飛騨弁で受け答えするなど、テンポにも気を配って対応するよう心掛けると、高山らしい温かい放送になると思った。

3点目は、外での放送・収録に関してだが、スタジオで1人でしゃべるのとは違い、色々な方と話をすることも多く、つい目の前の事象だけに囚われてしまいがちになる。‘その場’も大切だが「リスナーを置いてけぼり」ということにならないよう、リスナーを意識した放送を心掛け、今、私たちが何をしているのか、どんな人とどんな風に話をしているかなどの細やかな説明や、その場の雰囲気イメージしやすい言葉遣いなど、意識していかなければならないと思った。

次年度については、ラジオを聴く人がどんどん減ってきている中で、ラジオでできることを考え、ラジオの可能性を感じてもらえる番組作りに努めていきたい。

大萱委員長： ナビゲーター間でも情報を共有し、皆がスキルアップできるようお願いしたい。

会社側： 皆さんに聴いてもらえるような番組の仕掛け作りが必要になると思う。様々なメディアがある中で、昔ながらのラジオに耳を傾けてもらえるよう、市民を巻き込むなど多くの方に出演してもらい、認知度アップに繋がるよう仕掛けていきたい。

大萱委員長： 他に意見が無ければ閉会する。

会社側： 先ほど高木委員から頂いた飛騨弁の件だが、遠藤ナビからもあったが、普段私共は標準語で放送をしており、たとえ相手の方が飛騨弁で話しても、アナウンス的な意識が多分にあり、どうしても飛騨弁で返すことに抵抗を持ってしまう。以前も番組審議委員会の際に「飛騨弁でしゃべるナビゲーターがいると良いね」という意見をいただいた記憶がある。難しい課題ではあるが、方言に対しては、方言で返すようにできれば、より親近感が湧くのだと思う。

『料理散歩』は、皆さんの指摘どおり、映像がない分、現場の臨場感を伝えることはとても難しいと感じる。また、「リスナーが置いてけぼり」というところも、どうしても目の前のゲストを喜ばせようと、ゲストを重視してしゃべってしまい、その結果、身内の盛り上がりのように感じられるのかもしれない。遠藤ナビゲーターも言っていたが、リスナーのことも考えながら進行していきたいと思う。

本日は年末の忙しい中、貴重な意見を頂き感謝している。ますます番組に反映したいと思う。

■ 審議機関の答申又は、意見の概要を公表した場合における公表内容、方法年月日

12月19日 番組審議委員会の席上で説明

■ その他の参考事項

次回開催日 平成30年2月下旬

開催場所 飛騨地域地場産業振興センター（予定）